

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 岡本小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	40人	算数	40人	理科	40人
第5学年	国語	43人	算数	43人	理科	42人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

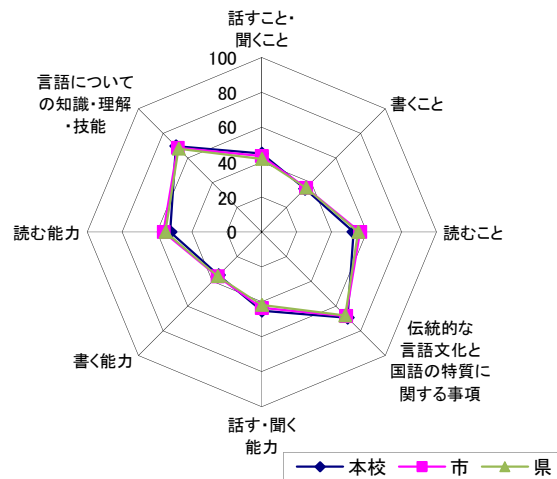
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	45.0	43.5	41.8
	書くこと	35.0	35.9	35.8
	読むこと	52.5	56.3	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.5	68.2	67.5
観点	話す・聞く能力	45.0	43.5	41.8
	書く能力	35.0	35.9	35.8
	読む能力	52.5	56.3	55.2
	言語についての知識・理解・技能	69.5	68.2	67.5



★指導の工夫と改善

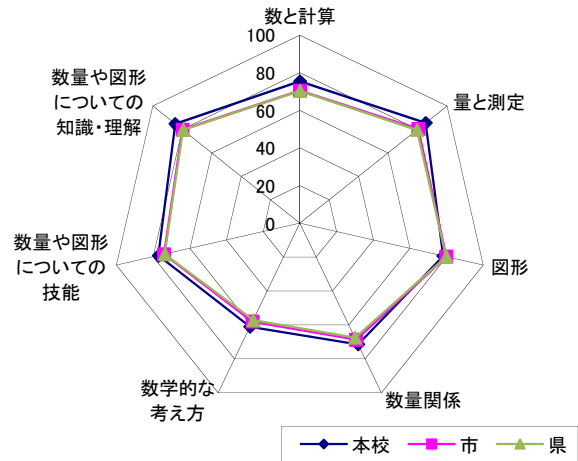
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・領域全体の平均正答率は、市平均と比較すると1.5ポイント高く、県平均と比較すると3.2ポイント高い。 ●「進行に沿った話し合いをする」記述式設問の平均正答率が15.0%と低い。ただし、県平均と比較すると3.7ポイント高い。	・教育活動全般において話し合い活動の場面を積極的に取り入れる。 ・話し合い活動の際、自分の意見を一度ノートに書いてから発言するような場面を設けることで、自分の意見を言葉だけではなく文章に表す活動も取り入れる。
書くこと	・領域全体の平均正答率は、市平均と比較すると0.9ポイント低く、県平均と比較すると0.8ポイント低い。 ○「招待状に入れる二つの内容を一文にまとめて記述する」記述式設問の平均正答率は45%で、県平均と比較すると11.0ポイント高い。 ●「話し合いをもとに招待状に付け足す文を記述する」記述式設問の平均正答率が15.0%と低く、県平均と比較しても9.1ポイント低い。	・お礼の手紙を書く活動などの場面を利用し、定型的な文章だけではなく、そこに一工夫してより良い文章を書くことができるような活動を取り入れる。
読むこと	・領域全体の平均正答率は、市平均と比較すると3.8ポイント低く、県平均と比較すると2.7ポイント低い。 ●「叙述をもとに登場人物の気持ちを想像して読む」選択式設問の平均正答率は75%であるが、県平均と比較すると5.3ポイント低い。	・国語の授業において、物語文では叙述を基にして登場人物の気持ちを想像したり場面の移り変わりを読み取ったりする場面において、具体物やロールプレイを取り入れることで、よりわかりやすく読み取ることができるような活動を取り入れる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・領域全体の平均正答率は、市平均と比較すると1.5ポイント高く、県平均と比較すると3.2ポイント高い。 ○「漢字の書き」短答式設問の平均正答率は83.3%で、県平均と比較すると16.6ポイント高い。 ●「会話文における「」の使い方」短答式設問の平均正答率は37.5%で、県平均と比較すると9.7ポイント低い。	・日記や感想文を書く活動などで、意図的に会話文を入れて書くよう指導し、会話文の部分丁寧に添削を行い、「」の使い方の定着を図る。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.5	70.5	70.3
	量と測定	85.5	80.4	79.6
	図形	78.1	79.8	79.7
	数量関係	71.4	68.7	67.5
観点	数学的な考え方	61.0	58.0	57.2
	数量や図形についての技能	77.2	74.1	73.7
	数量や図形についての知識・理解	84.8	79.9	79.5



★指導の工夫と改善

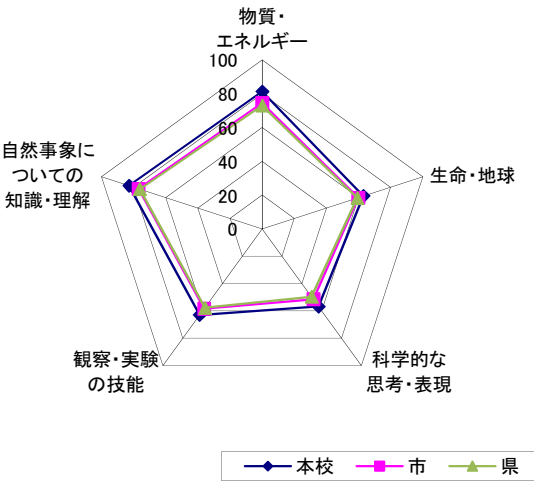
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域全体の平均正答率は、市平均と比較すると5.0ポイント高く、県平均と比較すると5.2ポイント高い。 ○「数直線の目盛を読み取り分数で表す」短答式設問の平均正答率は67.5%で、県平均と比較すると16.5ポイント高い。 ●「除法について余りを適切に処理し、その理由を書く」記述式設問の平均正答率が12.5%と低く、県平均と比較しても3.8ポイント低い。	・計算の処理を適切に行うことができるようにするだけでなく、なぜそのような処理の仕方になるのかを児童自らが考え、話し合いなどを通して解決していく場面などを設ける。
量と測定	・領域全体の平均正答率は、市平均と比較すると5.1ポイント高く、県平均と比較すると5.9ポイント高い。 ○「秒で表された時間を分の単位に換算する」短答式設問の平均正答率は95.0%で、県平均と比較しても11.2ポイント高い。 ●「はかりに示された重さを読み取る」短答式設問の平均正答率は75.0%で、県平均と比較すると1.1ポイント低い。	・はかりの目盛の読み取りが全体的に定着することができるよう、理科や総合的な学習の時間など、積極的にはかりを使って物の重さを図り、児童自らが目盛を読み取る作業を取り入れる。
図形	・領域全体の平均正答率は、市平均と比較すると1.7ポイント低く、県平均と比較すると1.6ポイント低い。 ○「円の直径を表す線分を選ぶ」選択式設問の平均正答率は87.5%で、県平均と比較しても4.7ポイント高い。 ●「半径3cmのボールが縦に入った筒の高さを求める」選択式設問の平均正答率は62.5%で、県平均と比較すると7.0ポイント低い。	・文章問題等の活用的な問題に対しては、問題文をよく読み取る必要があるため、日頃より問題の内容を正確に読み取ることで不注意による間違いを極力減らすことができるようにする。
数量関係	・領域全体の平均正答率は、市平均と比較すると2.7ポイント高く、県平均と比較すると3.9ポイント高い。 ○「未知の数量を□として数量関係を線分図に表す」選択式設問の平均正答率は95.0%で、県平均と比較しても13.9ポイント高い。 ●「棒グラフから条件に合う曜日を選ぶ」選択式設問の平均正答率は62.5%で、県平均と比較すると7.9ポイント低い。	・文章問題等に対しては、問題文をよく読み取る必要があるため、日頃より問題の内容を正確に読み取ることで不注意による間違いを極力減らすことができるようにする。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	81.3	74.5	72.9
	生命・地球	63.0	59.8	59.2
観点	科学的な思考・表現	56.8	51.6	49.7
	観察・実験の技能	63.0	58.4	57.7
	自然事象についての知識・理解	82.9	77.0	76.2



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	・領域全体の平均正答率は、市平均と比較すると8.4ポイント高く、県平均と比較すると6.8ポイント高い。 ○「電気の通り道」に関する設問の平均正答率は71.9%で、県平均と比較すると13.8ポイント高い。 ○「物の重さ」「風やゴムの動き」「光の性質」に関する設問の平均正答率はいずれも約9割で、県平均と比較してもいずれも5ポイント以上高い。 ●「磁石の性質」に関する設問の平均正答率は70.0%とやや低い。ただし、県平均と比較すると6.4ポイント高い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の改善 ・教室に磁石の実験セットを置いて、休み時間等に自由に触れさせるなど、遊びを通して児童が自発的に復習できるような環境を整える。 ・フォローアップシート等の「磁石の性質」に関する復習問題に取り組み、改めて基礎的な知識の定着を図る。
生命・地球	・領域全体の平均正答率は、市平均と比較すると3.9ポイント高く、県平均と比較すると3.3ポイント高い。 ○「身近な自然の観察」に関する設問の平均正答率は75.0%で、県平均と比較すると11.2ポイント高い。 ●「太陽と地面の様子」に関する設問の平均正答率は48.3%と低く、県平均と比較すると1.7ポイント低い。	・フォローアップシート等の「太陽と地面の様子」に関する復習問題に取り組み、改めて基礎的な知識の定着を図る。 ・「日陰の位置の変化と植物の成長を関係付けて考察する」「影の長さ調べの結果から日時計の製作を改善する」等の活用問題に対する正答率が低いため、基礎的な知識の定着はもとより、そこで得た知識を日常のどのような場面で活用できるのかを考える時間を設け、そこではグループによる話し合い等を通してたくさんのアイデアに触れることができるような活動を取り入れる。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人と学校での出来事について話をしている」の肯定群回答割合は90.0%（県平均比較+8.0ポイント）、「家の人と将来のことについて話すことがある」の肯定群回答割合は77.5%（県平均比較+12.5ポイント）、「家の人はあなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の肯定群回答割合は85.0%（県平均比較+6.0ポイント）となっており、家庭内のコミュニケーションが良好であることがうかがえる。

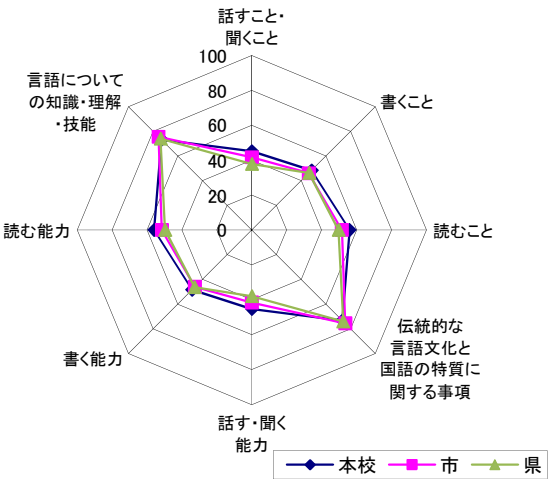
●「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」の肯定群回答割合は62.5%（県平均比較-8.1ポイント）、「難しい問題にであうとよりやる気がでる」の肯定群回答割合は55.0%（県平均比較-6.8ポイント）となっており、学びに向かう力がやや弱い傾向にあることがうかがえる。今後、自主学習や発展問題などに進んで取り組んでいる児童を意図的に賞賛するなど、自ら進んで学びに取り組むことを推奨することを心がける。

●「自分にはよいところがあると思う」の肯定群回答割合は89.7%（県平均比較+11.5ポイント）、「自分の持っている能力を十分に発揮したい」の肯定群回答割合は87.2%（県平均比較+2.0ポイント）である一方で、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の肯定群回答割合は55.0%（県平均比較-1.5ポイント）、「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定群回答割合は51.3%（県平均比較-12.4ポイント）、「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定群回答割合は40.0%（県平均比較-12.8ポイント）、「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」の肯定群回答割合は59.0%（県平均比較-17.1ポイント）となっており、自分の良さを積極的に表に出すことができない状況にあることがうかがえる。今後、様々な場面で意図的に児童の活動の様子を認め励まし、賞賛することによって自己肯定感や自己有用感を高め、児童が生き生きと学校生活を送ることができるようにしていく。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	45.2	41.6	37.9
	書くこと	48.4	46.1	46.3
	読むこと	56.0	51.6	49.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.3	75.6	74.0
観点	話す・聞く能力	45.2	41.6	37.9
	書く能力	48.4	46.1	46.3
	読む能力	56.0	51.6	49.7
	言語についての知識・理解・技能	73.3	75.6	74.0



★指導の工夫と改善

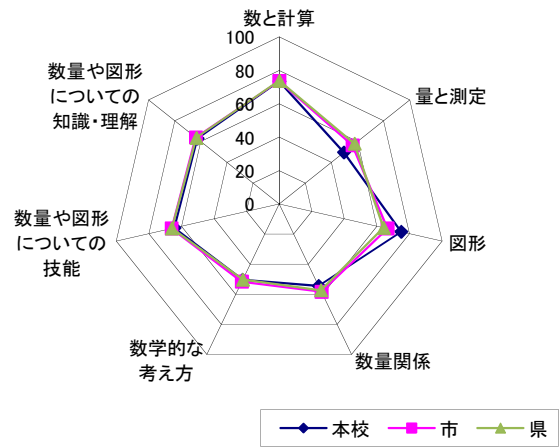
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は45.2%で市・県と比べそれぞれ3.6ポイント7.3ポイント高くなっている。特に、司会者の役割を問う問題では、市の平均を14.5ポイント、県の平均を20.2ポイント上回っている。 ●話し合いの内容が、進行にそっているかどうかを考えて書く問題では、市や県の正答率よりも僅かに上回っているものの2.4ポイントと正答率は低い。	・話し合い活動を積極的に授業に取り入れ、話し合うべきポイントを意識しながら意見をまとめていけるように繰り返し指導していく。 ・話し合い活動を行った後振り返りの時間を設け、自分や友達の発言が司会の進行に沿っていたかどうかを理由と共に書いて意見交換をさせ、反省を今後の学習に生かせるようにする。
書くこと	○学級新聞の記事に関する問題で、必要な情報を読み取り、学級新聞の見出しを考えたり、目的に応じて資料の見せ方を工夫したりする問題の正答率は、70ポイント前後で市や県の平均正答率とほぼ同じか若干上回っている。 ●資料と話し合いの文を基に、学級新聞に付け足す文を記述する問題では、条件を全て満たした完全解答が見られなかった。	・国語などの教科や総合的な学習などの学習活動を通して、自ら考えて文章を書く機会を増やす。 ・内容や文字数など複数の条件を意識して文章を書くことになっていない様子が見られるので、国語の授業中に時間を区切って条件を付けて作文を書く練習をする。
読むこと	○領域の平均正答率は、56.0ポイントと市・県の平均正答率を上回っており、特に物語の中の言葉が示す内容や登場人物の気持ちの読み取りなどは、市や県の平均を10ポイント以上上回っている。 ●説明文の各段落相互の関係を押さえながら読むことに課題が見られる。	・今後も朝の読書などの読書活動を推進し、様々な分野の文章や長文なども読み取る力を付けていく。 ・児童は好んで読書をしているが、分類に偏りがあるので、いろいろな種類の本を読む機会を設け、文と文のつながりに注意して読んだり、文の内容を要約したりできるよう指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	領域の平均正答率は、73.3ポイントで、県の平均正答率とほぼ同じ程度であった。 ○ことわざの使い方に関しては、良くできており、県の平均を12.3ポイント上回り、市の平均ともほぼ同程度だった。 ●漢字の書きに関する問題に課題が見られ、前年度までの配当漢字の正答率は、いずれも50ポイント代である。	・宿題や自主学習を通して、日常的に繰り返し漢字の練習をさせるとともに、テーマを与えたり過去に取り組んだ問題を利用するなどして、より多くの熟語や苦手な漢字にふれられるようにする。 ・漢字の意味や使い方を身に付けるために、文章の中で漢字を練習するようにする。

宇都宮市立小学校 第5 学年【算数】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.4	73.6	73.7
	量と測定	49.5	56.2	57.7
	図形	75.0	66.5	64.2
	数量関係	54.5	58.4	57.5
観点	数学的な考え方	50.5	51.7	50.3
	数量や図形についての技能	64.5	66.1	65.9
	数量や図形についての知識・理解	62.7	64.0	63.5



★指導の工夫と改善

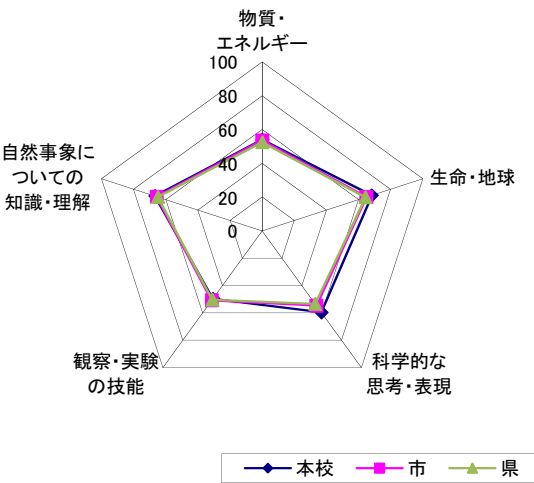
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○小数や分母が同じ分数の引き算は平均正答率が80ポイント以上で、良くできている。 ●大きな数を分解して表したり、数を0.01を単位とした相対的な数で表したりする問題の平均正答率が60ポイント代とやや低く、小数を含んだ四則計算の小数点の取り扱いについても課題が見られる。	・小数を含んだ四則計算の仕方に混乱が見られるので、朝の学習や宿題などを利用して、繰り返し問題に取り組ませ計算の習熟を図る。また、小数点の打ち方のきまりを文としてノートにまとめるなどして意識させ、知識の定着を図れるようにする。 ・大きな数を、1兆をいくつと1億をいくつ合わせた数というように分解して表したり、数を0.01を単位として表したりする問題に繰り返し取り組みせ、位の意味についての理解を図る。
量と測定	●領域での正答率は、49.5ポイントと低く、市平均や県平均に比べてもそれぞれ6.7ポイント、8.2ポイント低い。特にその中でも、面積や角度に関する問題の正答率半数以下と低く、求め方や具体的なイメージの習得に課題が見られる。	・問題を解く際に、具体的な図が示されていないでも、問題文の内容を読み取って図に表しながら考えるようにさせ、理解が図れるようにする。また、単位が異なる問題も意図的に取り入れ、単位の換算が正確にできるようにする。 ・分度器を利用する問題に繰り返し取り組みせ、角の大きさに対するイメージを身に付けられるようにする。
図形	○領域全体の正答率は、75.0ポイントと市の平均と比べて8.5ポイント、県の平均と比べても10.8ポイント高い。特にひし形の特徴については平均正答率64.3ポイントと市や県の平均を30ポイント前後上回っている。 ●与えられた2つの辺の続きをかくて、ひし形を完成する問題では、正答率66.7ポイントと市や県の平均をわずかではあるが下回っている。	・図形の特徴を言葉では理解していても、実際の作図の際に生かすことができない様子が見られるので、作図の練習を多く取り入れ、操作を通して図形の特徴との結びつきを意識させる。また、コンパスや分度器の扱い方を含めた技能の習得を図る。
数量関係	○白いテープと赤いテープの長さの関係をを表した図からテープの長さを求める式を選ぶ問題の正答率は71.4ポイントで市や県の平均よりやや高い。 ●答えの求め方を文で表したり、表やグラフを読み取って式を立て、理由を説明したりすることに課題が見られる。	・図や表、グラフなどを使った問題を意図的に授業に取り入れ、様々な資料から必要な情報を読み取って答えを導き出す力の育成を図る。 ・自分の考えや、答えの求め方を文章に表して説明する機会を多く設け、考え方を言語化できるようにする。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	54.0	53.7	52.5
	生命・地球	68.3	64.9	64.3
観点	科学的な思考・表現	59.6	54.7	53.4
	観察・実験の技能	49.6	50.8	50.3
	自然事象についての知識・理解	66.7	65.7	64.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○空気を押し縮めたときの体積と手応えの違いを問う問題の平均正答率は87.8ポイントと高く、市や県の平均も10ポイント前後上回っている。また、熱せられた空気の動きを描き込む問題も正答率が8割を超えており、空気の性質の理解はできている。 ●水を温め続けたときに水中から出てくる泡の招待を問う問題の正答率は20ポイントを下回っており、市や県の正答率から比べても20ポイント以上低く、学習内容と身近な自然現象とのつながりが薄い様子が見られる。また、科学的現象が起こる理由を言葉で述べる問題も苦手である。	・水が沸騰すると水蒸気になることは7割以上の児童が理解している。教科書と同じ実験の現象については比較的正答率が高いが、それ以外の身の回りの現象などを取り入れた問題では正答率が下がってしまう。このことから、身の回りの事象を取り上げ、実験方法を児童自身に考えさせるなどして主体的に取り組ませ、授業内容が身近な現象と結びついた実感を伴った理解につながるようにする。 ・実験の結果から分かったことをキーワードを提示するなどしながら文章化する経験を増やし、言葉を通して科学的に考える力の育成を図る。
生命・地球	○一日の気温の変化の様子や月の一日の動きに付いては9割以上の児童が理解しており、県の平均正答率よりも10ポイント以上高い。 ●人の背中や手が丸く曲げられる理由を、「関節」という言葉を使って説明する問題の平均正答率が36.6ポイントと低く、指定された言葉を使って、自分の考えを文章にまとめることに課題が見られる。	・身の回りの現象を実験によって再現し、その理由を考えて説明し合う活動を増やし、考えを言語化して伝えることへの苦手意識を減らしていく。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分はクラスの役に立っていると思う」の肯定群回答割合は66.7%で、県平均を11.9ポイント上回っている。高学年児童は、これから様々な悩みが出てくるときではあるが、今後も機会を捉えて様々な役割に挑戦させ、自己有用感がさらに高まるよう指導していきたい。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」の肯定群回答割合は85.7%で県平均を13.8ポイント上回っている。また、「学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスの決まりなどを決めていると思う。」の肯定群回答割合は90.5%で、県平均を11.8ポイント上回っており、児童が話し合い活動を盛んに行い、安心して学び合っている姿がうかがえる。しかし、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」の肯定群回答割合は50.0%であり昨年より増えたものの5割を超えていない。言語活動において、児童の様々な考えを引き出し、思考を深めるような指導や発問の工夫をし、自分の発言に自信をもてるような取り組みをしていく必要がある。

○「毎日、朝食を食べている」の肯定群回答割合は95.2%で、昨年と同様で県平均ともほぼ同じであったが、「早寝早起きを心掛けている」の肯定群回答割合は昨年の81.0%より減少し73.8%となり、県平均より6.3ポイント低い結果となった。学習内容が難しくなり家庭学習にかかる時間も長くなってきていると思われるが、今後も家庭との連携を深め規則正しい生活を送れるようにしていきたい。

●「家の人と学習について話をしている。」の肯定群回答割合は64.3%で県平均より9.8ポイント、市平均より13.8ポイント低い。学習についての話し合いを持つことは、学習意欲、学力の面だけでなく、高学年として中学校生活への見通しをもつためにも大切なことであるため、授業や学校生活全体を通して意識付けを図ると共に、懇談会等でも話題にしていきたい。

●県平均と比べて肯定群回答割合の低い項目は、「家で学校の授業の予習をしている」の40.5%（県平均比較-12.5ポイント）、「家で自分で計画を立てて勉強している」の54.8%（県平均比較-14.2ポイント）、「家で学校や塾で決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている。」の42.9%（県平均比較-16.1ポイント）である。これらの結果から、家庭で同じ時刻に宿題に取り組む習慣化は図れているが、内容は他人任せになりがちで、自主的に学習することには課題があることが伺える。予習については、教科書を先に進めることだけと思っている児童も多いことから、授業のための事前のインタビューや調べ学習も大切な予習であることを伝えると共に、今後、自主学習の手引きに従って自ら考えて学習に取り組ませる指導をし、継続していく。

●校内での共通した取り組みにより、「授業では、授業の（めあて・ねらい）が示されている」の肯定群回答割合は95.2%と高く、県平均を5.4ポイント上回っているが、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」の肯定群回答割合は52.4%と5割にとどまっている。教師がまとめとして振り返りを行っていても、児童が十分意識していない様子が見えるので、今後、学習内容が定着できるよう振り返りの仕方や時間の取り方を工夫していく。